

高砂市民病院改革プランの見直し項目

平成23年12月見直し

高砂市民病院

1 改革プランの修正にあたって

(主たる変更事項)

平成20年度に策定した改革プランは、12億円近い赤字を改善するために、収入増加策、経費削減策を設定することに主眼を置いたものであった。それら改善策は修正を加えながら実績を上げ、平成22年度には経常収支黒字が達成できた。

今年度10月までの実績は、予定外に医師2名が減ったことにより赤字基調となっているが、管理者を設置し、これまで取り組んできた成果は十分に現れており、プラン策定当初の収支改善策については既に収支均衡が達成された今、目標としての意味が失われている。

今後、23年度以降に生じる変動要因を加えても収支均衡を維持できるよう、新たな目標を設定することが必要となるが、費用削減策については、これまで相当の削減を実施し、これ以上の大きな削減余地は残されていない。また、収益増加策についても現在取得できる新たな加算は、ほぼ取得した状況の中、医師の確保が引き続き重要な課題として残っている。

今回の見直しにあたっては、プラン策定当初の目標値との比較は行わず、収支均衡できた22年度をベースとし、23年度に入り生じた医師の減少、本年6月に取得した7対1基準看護、来年度以降の医師確保、医療機器の充実計画等の変動要因に対して影響額を試算し、22年度との乖離を埋めることを目標とした形に改める。目標達成に向けては救急患者の受入れ増、外来化学療法の新なる充実、予防医療、検診も含めた市民、近隣企業への広報により、患者数の増加につなげていく。

対22年度効果額（主な変動要因に対する影響額）

(単位：百万円)

経費削減	H23	H24	H25	H26	H27
人件費削減効果額	-21	-48	-48	-48	-48
医師増減	(-2人) 32	(-1人) 16	16	16	16
看護師採用(7対1)	(+4人) -24	-24	-24	-24	-24
看護師臨時採用(7対1)	(+7人) -21	-21	-21	-21	-21
薬剤師採用(病棟)	0	(+2人) -14	-14	-14	-14
調理師正規削減	(-4人) 24	(-5人) 30	30	30	30
調理師臨時採用	(+4人) -12	(+5人) -15	-15	-15	-15
外部応援医師増加	-20	-20	-20	-20	-20
材料費削減額効果額	20	20	20	20	20
SPD方式変更による削減	20	20	20	20	20
賃借料の削減効果額	-3	-97	-119	-132	-145
医療情報システム更新による増		-76	-89	-89	-89
高度医療機器充実によるリース料増(病院負担分)	-3	-21	-30	-43	-56
委託料の削減効果額	20	20	20	20	20
SPD方式変更による削減	20	20	20	20	20
企業債繰上償還、借り換えによる効果額(病院負担分)		3	25	21	17
小計	16	-102	-102	-119	-136

収入増加	H23	H24	H25	H26	H27
医師確保等による収益増効果額	-217	-104	-104	-104	-104
整形外科医師2名減(H23.5)	-151	-151	-151	-151	-151
耳鼻科、皮膚科医師	-66	-66	-66	-66	-66
内科医師1名増(H24.4 1診増)		113	113	113	113
看護基準変更(H23.6 7:1)増収	122	146	146	146	146
外部応援医師一般会計繰入	10	10	10	10	10
小計	-85	52	52	52	52

合計	-69	-50	-50	-67	-84
----	-----	-----	-----	-----	-----

※ 平成22年度経常収支 +60百万円

2 病院の現状について

2-1 平成23年度上半期の経営状況について

① 医業収益

4名の医師の退職により入院収益が前年度比較で大きく減少した。一方で外来収益は、外来化学療法、腹膜透析患者が増えたことにより、前年度と比較して増収となっている。

② 医業費用

人件費で外部医師に係る報酬と7:1看護基準を取得・維持するための看護師確保により賃金等が前年度比較で大きく増加している。材料費については、外来化学療法の拡充に伴う抗がん剤の使用増加により薬品費が増加している。これらの影響により、費用全体では経費の削減額を超え前年度比較で若干の増加となっている。

2-2 平成23年度 of 取組みについて

- ① 医師確保、看護師確保
- ② 施設基準の適合、加算申請
- ③ 外来化学療法の充実
- ④ 認定看護師の養成
- ⑤ 検診・人間ドックメニュー見直し

2-3 平成23年度収支予測及び改革プランの進捗状況について

医業収益では、入院収益で医師4名の退職による減収の影響が大きく、外来収益が堅調に伸びているものの、昨年12月の改革プラン見直し数値と比較しても△93百万円と減少している。平成23年度の収支予測では、経常損失37百万円、総収支で258百万円となる見込みであります。

3 収支均衡に向けた今後の方針

3-1 数値目標

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	策定時	修正		計画		計画		計画		計画
経常収支比率	100.9%	99.3%		100.3%		100.4%		99.7%		98.8%
職員給与比率	49.3%	53.7%		52.7%		52.7%		52.5%		52.5%
病床稼働率	91.3%	67.4%		67.4%		67.4%		67.4%		67.4%
医業収支比率	100.4%	95.0%		95.4%		95.0%		93.9%		92.6%
1日平均入院患者数	220	191		191		191		191		191
1日平均外来患者数	800	750		750		750		750		750
患者紹介率	40.0%	40.0%		40.0%		40.0%		40.0%		40.0%

3-2 経営効率化への取組みについて

1) 収益確保対策

- ① 医師確保、看護師確保
- ② 施設基準適合、新規申請
- ③ DPCの活用（機能評価係数加算）
- ④ 近隣企業へのPR

2) 経費削減、抑制対策

- ① SPD業務の見直し（診療材料費、委託料の削減）
- ② 職員数の適正化

4 収支見直し（修正分）

(別紙)

団体名 (病院名)	高砂市 (高砂市民病院)
--------------	-----------------

平成23年12月現在

1. 収支見通し (収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分		年度							特別償還 終了年度 (27年度)	
		20年度(見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
収	1. 医業収益 a	4,742	5,131	5,338	5,188	5,356	5,356	5,356	5,356	
	(1) 料 金 収 入	4,429	4,817	5,019	4,869	5,037	5,037	5,037	5,037	
	(2) そ の 他	313	314	319	319	319	319	319	319	
	うち他会計負担金	163	165	165	165	165	165	165	165	
	2. 医業外収益	386	406	418	416	436	377	386	405	
	(1) 他会計負担金・補助金	354	367	381	379	399	340	349	368	
入	(2) 国(県)補助金									
	(3) そ の 他	32	39	37	37	37	37	37	37	
	経常収益(A)	5,128	5,537	5,755	5,604	5,792	5,733	5,742	5,761	
	支	1. 医業費用 b	5,396	5,298	5,399	5,459	5,612	5,638	5,703	5,784
		(1) 職員給与費 c	2,864	2,759	2,794	2,785	2,821	2,821	2,812	2,812
		(2) 材 料 費	1,052	1,159	1,156	1,188	1,201	1,201	1,201	1,201
(3) 経 費		863	776	810	820	920	946	974	1,016	
(4) 減価償却費		151	150	148	148	148	148	195	234	
(5) そ の 他		466	454	491	519	522	522	521	521	
出	2. 医業外費用	353	313	296	181	160	72	59	45	
	(1) 支払利息	257	216	198	178	157	69	56	42	
	(2) そ の 他	96	97	98	3	3	3	3	3	
	経常費用(B)	5,750	5,610	5,695	5,641	5,772	5,711	5,762	5,829	
	経常損益(A)-(B)(C)	▲ 622	▲ 73	60	▲ 37	20	22	▲ 20	▲ 68	
	特別損益	1. 特別利益(D)	835	372	350	300				
2. 特別損失(E)		1	4	1	5	5	5	5	5	
特別損益(D)-(E)(F)		834	368	349	295	▲ 5	▲ 5	▲ 5	▲ 5	
純 損 益 (C)+(F)	212	294	409	258	15	17	▲ 25	▲ 73		
累 積 欠 損 金 (G)	8,938	8,644	8,235	7,977	7,961	7,944	7,969	8,042		
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	934	860	882	1,102	1,102	1,033	934	809	
	流 動 負 債 (イ)	1,098	712	303	303	303	303	303	303	
	うち一時借入金	800	440	0	0	0	0	0	0	
	翌年度繰越財源(ウ)									
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額	(エ)									
差引 不良債務 [(イ)-(エ)]-[(ア)-(ウ)] (オ)	164	▲ 148	▲ 579	▲ 799	▲ 799	▲ 730	▲ 631	▲ 506		
単年度資金不足額(※)	▲ 37	▲ 312	▲ 431	▲ 220	0	69	99	125		
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	89.2	98.7	101.1	99.3	100.3	100.4	99.7	98.8		
不良債務比率 $\frac{(オ)}{(ア)} \times 100$	3.5	-	-	-	-	-	-	-		
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	87.9	96.8	98.9	95.0	95.4	95.0	93.9	92.6		
職員給与対医業収益比率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$	60.4	53.8	52.3	53.7	52.7	52.7	52.5	52.5		
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	2,430	1,801	1,051	509	186	▲ 72	▲ 301	▲ 506		
地方財政法上の資金不足の割合 $\frac{(H)}{a} \times 100$	51.2	35.1	19.7	9.8	3.5	▲ 1.3	▲ 5.6	▲ 9.5		
方公共団体の財政の健全化に関する法律上の資金不足比	3.5	-	-	-	-	-	-	-		
病 床 利 用 率	70.7	75.4	75.1	67.4	67.4	67.4	67.4	67.4		

(※)N年度における単年度資金不足額については、次の算式により算出すること。ただし、20年度については、次の算式により算出した額に公立病院特別債発行額を加算した額とすること。

○「N年度 単年度資金不足額」=「N年度の不良債務額」-「N-1年度の不良債務額」

・不良債務額が負の数となる場合においても負の数で上記単年度資金不足額を算出すること

例)「22年度単年度資金不足額▲30百万円」=「22年度不良債務額▲20百万円」-「21年度不良債務額10百万円」

団体名 (病院名)	高砂市 (高砂市民病院)
--------------	-----------------

2. 収支見通し(資本的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度	20年度(見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	特例債償還 終了年度 (27年度)
収 入	1. 企業債	2,266					310	265	100
	2. 他会計出資金	222	556	571	645	600	694	734	756
	3. 他会計負担金								
	4. 他会計借入金								
	5. 他会計補助金								
	6. 国(県)補助金								
	7. その他								
	収入計 (a)	2,493	560	571	645	600	1,004	999	856
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
純計(a)-(b)+(c) (A)	2,493	560	571	645	600	1,004	999	856	
支 出	1. 建設改良費	45	59	60	96	101	510	478	297
	2. 企業債償還金	302	634	652	735	663	728	790	845
	3. 他会計長期借入金返還金								
	4. その他								
支出計 (B)	347	693	712	831	764	1,238	1,268	1,142	
差引不足額 (B)-(A) (C)	▲ 2,146	133	141	186	164	234	269	286	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金		133	141	186	15	17	▲ 25	▲ 73
	2. 利益剰余金処分量								
	3. 繰越工事資金								
	4. その他								
計 (D)	0	133	141	186	15	17	▲ 25	▲ 73	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	▲ 2,146	0	0	0	148	217	293	359	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)									
実質財源不足額 (E)-(F)	▲ 2,146	0	0	0	148	217	293	359	

- 複数の病院を有する事業にあっては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。
- 公立病院特例債償還終了年度分まで記入すること。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	20年度(見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	特例債償還 終了年度
収益的収支	(835,000) 1,351,991	(372,000) 903,502	(350,000) 895,734	(300,000) 843,821	564,066	504,861	514,321	533,131
資本的収支	222,329	555,818	570,151	645,148	600,446	694,204	733,963	756,122
合計	(835,000) 1,574,320	(372,000) 1,459,320	(350,000) 1,465,885	(300,000) 1,488,968	1,164,512	1,199,065	1,248,284	1,289,254

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。